

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第7区分

【発行日】令和2年5月28日(2020.5.28)

【公開番号】特開2020-29370(P2020-29370A)

【公開日】令和2年2月27日(2020.2.27)

【年通号数】公開・登録公報2020-008

【出願番号】特願2019-193078(P2019-193078)

【国際特許分類】

B 6 5 G 47/46 (2006.01)

B 6 5 G 13/10 (2006.01)

B 6 5 G 47/68 (2006.01)

【F I】

B 6 5 G 47/46 C

B 6 5 G 13/10 D

B 6 5 G 47/68 D

【手続補正書】

【提出日】令和2年4月6日(2020.4.6)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

第1シャフト(2)と、前記第1シャフトの周囲を回転する回転体であって、前記第1シャフトの軸に対してある角度傾いた回転軸を有する第1回転体(11)と、前記第1シャフトと前記第1回転体との間に位置し、前記第1回転体を回転可能に支持する第1支持体(3)と、前記第1回転体を回転駆動させるための第1駆動体(4)と、を備えた分岐装置であって、

前記第1支持体は、前記第1シャフトと前記第1回転体との間に位置する円盤であって前記第1回転体と同心円の第1傾斜円盤(32)と、前記第1傾斜円盤の外周に位置し、前記第1傾斜円盤に対して前記第1回転体を回転可能に支持する第1回転機構(81)とを備え、

前記第1回転体の回転軸に平行な方向の前記第1回転体の厚みが、前記第1回転体の回転軸に平行な方向の前記第1傾斜円盤の厚みより厚いことを特徴とする分岐装置。

【請求項2】

前記第1回転体(11)と前記第1駆動体(4)とが互いに接する部分において押圧力がかかり、前記第1駆動体(4)の回転が前記押圧力及び摩擦により前記第1回転体(11)に伝搬することを特徴とする請求項1に記載の分岐装置。

【請求項3】

前記第1回転体(11)と前記第1駆動体(4)とが互いに接する部分における前記押圧力及び慣性モーメントを利用したことを特徴とする請求項2に記載の分岐装置。

【請求項4】

前記第1支持体(3)の傾斜方向が変化することによって前記第1回転体(11)の最大外周部の高さ位置が変化することを特徴とする請求項1ないし3のいずれかに記載の分岐装置。